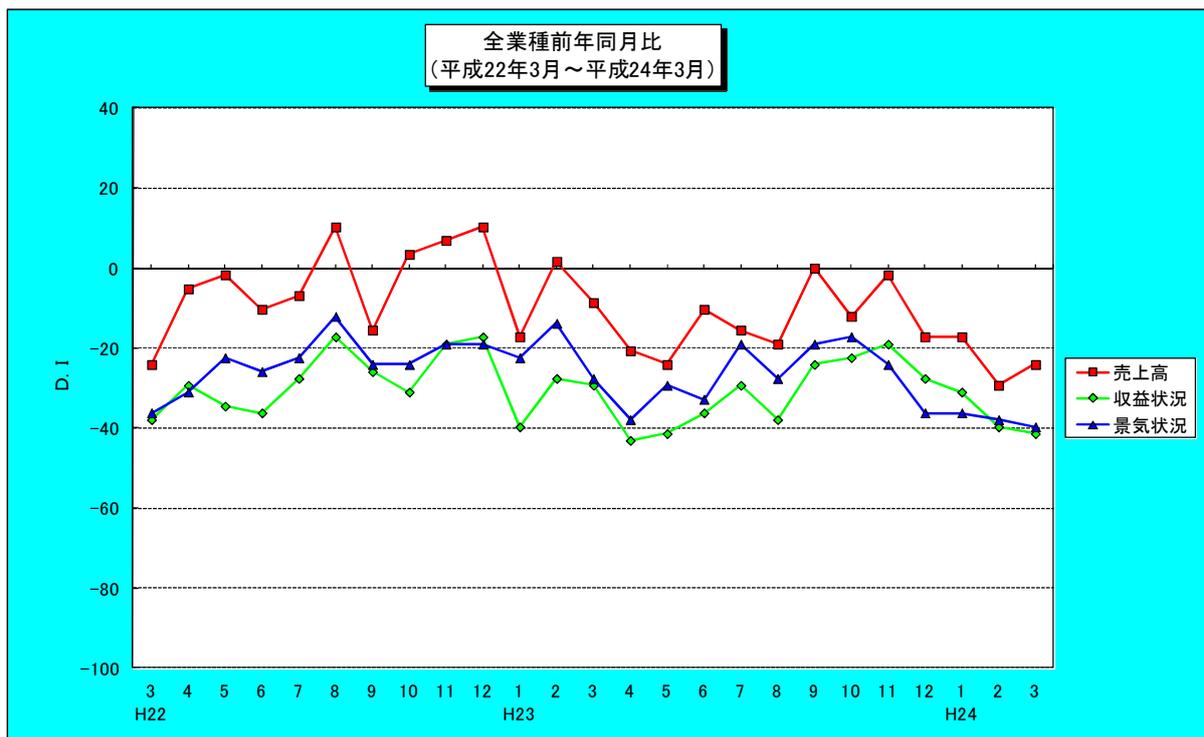


■平成24年3月分

- 平成24年3月期において
D I値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、前月唯一改善していた「販売価格」が悪化に転じ、「売上高」「在庫数量」「資金繰り」「設備操業度」が改善していた。ただ、改善項目が1つから4つに増えたものの、主要3項目（売上高・収益状況・業界の景況）のうち、「売上高」しか改善していないことから、厳しい経営状況が続いていることが窺える。「売上高」が改善したのは、「製造業」ではなく、「非製造業」であり、昨年は東日本大震災によって観光産業が大きく低迷したため、観光需要が回復した今年は改善したものと考えられる。尚、製造業については、東日本大震災の復旧需要は現在のところみられず、原油高、欧州金融不安、中国経済の減速、足踏み状態の為替動向等、「製造業」には好転する要素が乏しい状況にある。
- 製造業においては、全体の傾向と少し異なって、「売上高」、「収益状況」が若干の増減、「業界の景況」に変化が見られない状況であった。その中で「設備操業度」が12.9ポイント改善しているにもかかわらず、「販売価格」「取引条件」が共に約10ポイント悪化していることなどから、“厳しい取引環境”であることが窺える。現状の製造業の景気を下支えているのは、『窯業・土石製品』における官公需、『一般機器』における自動車部品需要であった（工作機械・建機・織機は不調であった）。尚、東日本大震災の復旧需要を期待している声は聞かれるものの、現実はその需要はまだ現れていないため、今後に期待したいところである。
- 非製造業では、「売上高」が14.8ポイントと大幅な増加とり、その要因は“観光関連業界”であった。昨年は東日本大震災によって大きく観光客が減少したため、その反動で『旅館・ホテル業』と『土産物小売』の動向が大きく改善したことによるものと考えられる。但し、卸売・小売業は、どの項目においても改善がみられず、消費の低迷が続いていることを嘆く声が多く聞かれるなど、厳しい状況に変化が見られないもようである。その中でも『自動車整備業』においては、自動車の新車登録が好調であったことから、“エコカー補助金”の効果は非常に大きいことが窺える。
- 原油価格の高止まりによる県内企業への影響について、「ある程度影響がある」との回答が36.4%と一番多く、「非常に影響がある」との回答21.2%を合わせると約6割が影響を受けているもようである。事業活動全般にわたって、“原油”が大きく関わっていることから、既にその影響を受けていることが窺える。尚、「影響がある」を業種別でみると、製造業が7割強、非製造業は5割であった。具体的な影響については、製造業では「運送費の上昇」最も多く、次いで「資材・仕入価格の上昇」が多かった。また、非製造業においては、「コストの上昇」が最も多く、次いで「消費低迷に繋がる」が多いなど、直接的なコスト上昇だけでなく、消費マインドといった間接的な影響が出ているのが特徴的であった。影響への対応策については「対応策がない」が圧倒的に多数であり、企業の自助努力では対応は困難であると思われるので、今後の政府の対応に期待したい。

◇全業種の前年同月比推移（H22.3～H24.3）



※本調査は、当会に設置している情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役員職員58名に委嘱〕による調査結果です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類種分類相当)	組合及び組合員の業況等(業況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	調味材料製造業	県内の醤油出荷量は前年同月比で大幅の減少となった。消費低迷の傾向が依然として続いているようである。更に主要原材料の価格高騰が懸念されるところである。
		菓子製造業	ガス代の値上や光熱費を含む経費の高騰が収益状況にかなり響く状況にある。その分を販売価格に簡単に転嫁できないし、商品の質を落とすこともできないため、現状はますます厳しくなる一方である。
	繊維工業	織物業 (加賀方面)	欧州経済、中東世情不安により輸出に悪影響が出ている。特にイラン制裁による発注を見合わせる動きから、昨年まで順調に推移していた商品の生産がストップしている。また、原油高騰から燃料費などの生産コストの上昇により、厳しい採算性が続いている。高機能分野で生産量をなんとか維持してきた商品においても、大きな陰りが見られる。
		その他の織物業 (染色加工)	売上高や収益状況に大きな変化は見られず、昨年並みの推移を見せている。個人消費については、上向きとなる雰囲気はまだ感じられない。来月開催する展示会などにおいて今後の予測ができると考えている。原油価格の高止まりについては、今後影響がありそうである。具体的な影響については、製造時におけるボイラーなど燃料費が増加することである。この対応策については特に立てることができず、価格転嫁もできない状況である
		ニット製品製造業	昨年は大震災により一部の荷動きが滞ったため、在庫が増えた。昨年との違いはこの程度であるが、現状は一般の衣料向けが引き続きさえず、スポーツ衣料も旺盛な春夏物の生産が終了し、関連の設備稼働率は下がっている状況であるが、非衣料向けは年度末にもかかわらず堅調である。
		その他の織物業 (織マークの生産・加工)	3月度は昨年同月比でほぼ同水準の売上高となった。しかし、平成23年度内においては最も売上が少なく、昨年12月中旬以降の売上減少傾向に変化はなく、厳しい状況が続いている。円高修正により輸出環境の改善に期待したいが、イラン問題、欧州の金融危機の再燃、国内政治不安など不安材料が多い。平成24年度は希望の持てる新年度になるよう期待したい。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業 (金沢方面)	3月は決算期でもあり、昨年を超えたく懸命に努力した。来年度も間伐材等加工流通整備事業の補助を受け、金物工法への取り組みを開始し新たな需要の開拓に努めていきたいと考えている。
		製材業、木製品製造業 (能登方面)	3月は大雪と木材価格の低迷により、出材量、売上高、平均単価は昨年同月比で減少した。例年であれば雪解けと同時に沢山の入荷があるが、積雪と長引く木材価格の低迷などにより入荷が減少し、製材や工務店の活気が見られない。
	出版印刷製造業	印刷製造業	一部の組合員で改善に兆しがあるところも見受けられるが、時節的要因であることなど、業界全体としては総じて苦しい状況に変わりはない。業界の先行きについては、引き続き不透明感が強く予測が立たない状況が続いている。
	窯業・土石製品	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷状況について、前年同月比で111.1%の出荷となった。地区別で見ると、南加賀、金沢、羽咋・鹿島、七尾、能登地区がプラス出荷で鶴来・白山麓のみがマイナス出荷であった。また、官公需は105.2%、民需は120.8%の状況である。原油価格の高止まりについては、非常に影響がある。具体的な影響については運搬費がかさむことであるが、対応策は特でない。
		砕石製造業	3月の組合取扱い出荷量は、生コン向けで6.8%減、合材用アスファルト向けで13.5%増となり、全出荷量では3.2%の減少となった。また、年間トータルでは、対前年度比で生コン向けが8.6%増、合材アスファルト向けで6.7%増、全出荷量で8.5%の増加となった。これは主に金沢地区の公共工事や南加賀地区の民間工事の受注増に伴い、骨材の出荷増に繋がったことによるものである。次年度の出荷見込みは15%前後の落ち込みが予想され、非常に厳しい状況になると考えられている上に、燃料費の高騰が響き、更なるコストダウンの追求が必要となると思われる。
		粘土かわら製造業	1~2月の天候不順に続き、3月に入っても安定しないため出荷量は減少した。今後の出荷見直しについても、1~3月の出遅れた分を挽回するには厳しいものがある。また、原油高騰により燃料価格が急騰し既に想定ピークの状況となっていることや原材料価格も非常に心配されているため、今後の市況動向を注視している。金融機関の融資姿勢に特に変化はなく、資金繰りは比較的安定している。
		陶磁器・同関連 製品製造業	売上高は、地震の影響などにより飾り物が敬遠される傾向にあることなどから減少している。特に作家物などの高額品、花瓶、飾皿などが売れない。原油価格の高止まりについては、特に影響は見られない。
	鉄鋼・金属	鉄素形材製造業 (鉄鉄鋳物の製造)	稼働率は分野別で差異があるものの、全体としては横ばいの状態が続いている。受注状況は建機、織機、産機など各分野で減少傾向にある。インフラ関係など復興事業向けについても動きが見られない。原油価格の高止まりについては、非常に影響がある。具体的な影響については、燃料費のアップのみならず、電力多消費である業界にとってはこれからの電力料金の動向が大きな問題になってくるであろう。この対応策については、電力使用量の大幅削減は困難であるため、ユーザーへの価格転嫁要求など厳しい環境が予想される。
		鉄素形材製造業 (鉄鉄鋳物の製造・修理)	売上高については、低下傾向にあるものの、総じて著しい減少は見られない。収益状況は長引く円高及び中国をはじめとした世界経済の減速などに加え、原油価格の高止まりにより収益率の低下が続いている。これらのマイナス要因を補う震災復旧・復興の内需拡大に期待している。原油価格の高止まりについては、ある程度影響がある。具体的な影響については、当業界の動力源は以前重油に依存してきたが電力に改められているため、電力料金の変動は損益に大きな影響が生じることになる。また、原油価格の高止まりはガソリン及び資材などの石油製品への影響があり、経費増による更なる収益の低下が懸念される。
		非鉄金属・同合金圧延業	売上高や収益状況について、先月同様に厳しい状況である。工芸品についても、観光客が少なく需要の低迷から売上高は減少している。最近、需要の落ち込みから収入が減少したため、廃業などにより組合を脱退する職人が増えている。原油価格の高止まりについては、ある程度影響がある。具体的な影響については、原油価格の高騰によりリスク回避の流れが金相場に波及し、金地金価格が乱高下している。
		一般機械器具製造業	原油価格の高止まりについては、非常に影響がある。具体的な影響については、機械価格や輸送料金などの値上げとなっている。この対応策については特でない。 団地全体が繁忙であるため、毎月の例会などの話題についても内容のある話が多い。一部、物流機械製造工場が横ばい状況にあるが、赤字状態ではない。原油価格の高止まりについては、ある程度影響がある。具体的な影響については、物流の運賃関係で値上ムードが高まっていることである。
	一般機器	機械金属、機械器具の製造	自動車関連の仕事は多忙であるが、繊維機械関連や中型・小型の建設機械関連の生産は減少が懸念されている。そのため、売上高及び収益状況は共に減少傾向にある。原油価格の高止まりについては、今後影響がありそうである。具体的な影響については、電気料金などの値上に繋がることから製造原価が上がることになる。この対応策については、原価上昇分を製品価格に転嫁することは困難であるため、特に考えていない。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(業況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	一般機器	プレス、工作機械	工作機械の受注金額は、対前月比5.7%、対前年同月比で8.6%減と2カ月連続で減少となった。内需においては、対前月比10.9%増と3カ月ぶりに増加、対前年同月比で16.3%減と2カ月連続で減少となった。国内製造業では多くの企業で償却期間の過ぎた古い機械が使われており、特に2008年のリーマンショック以降、設備更新が進んでいない。外需では、対前月比3.6%増と2カ月ぶりに増加、対前年同月比で4.8%減と2カ月連続の減少となった。世界各地域で受注の勢いには濃淡が見られるが、先進国。途上国問わずグローバル規模で製造業の振興・発展が競われている。日本の工作機械産業がこの競争に勝ち残っていくためには、国内外のユーザーニーズに応えた機械を適正な価格で供給していく地道な努力を積み重ねていくことが肝心である。原油価格の高止まりについては、特に影響はない。	
		機械器具及び其の他 金属製品の製造	自動車関連部品については、概ね好調を維持している状況に変わりはない。完成車メーカーが一斉に開発をしのぎ削っており、受注のキャバを超えているため対応に困難な状況が続いている企業も見られる。一方、電気機械においては、タイ向けの溶接用消耗品が増加している企業と特需で多忙な企業もあるが、家電関係部品などの電機・電子部品などは低迷している。チェーン関係では、四輪チェーンが完成車メーカーの需要増に対応し好調であるが、二輪チェーンは低調である。ただ、織機機械は外部環境の変化から昨年ピークの半分に落ち込んだ生産に下げ止まり感が見られ、底から脱出の兆しが見られる。原油価格の高止まりについては、今後影響がありそうである。具体的な影響については材料メーカーからの仕入価格の上昇が懸念される。この対応策については、値段が上がる前にまとめて仕入れることや生産性を向上させることにより吸収するなどである。	
		機械、機械器具の製造 又は加工修理	組合員の織機機械向け部品加工については、対前年度月平均比でマイナス25%、直近のピークである平成19年度月平均比でマイナス21%であった。主力の中国市場の金融引き締めによる受注の落ち込みから回復が遅れているためであり、この状態はしばらく続きそうである。ただ、中国の内需拡大方向に変化はなく、夏以降は回復に向かうと取引先メーカーは予想している。工作用機器向け部品加工は、対前年度月平均比でプラス4.5%、平成19年度月平均比でマイナス19%と着実に回復が進んでいる。原油価格の高止まりについては、影響がある。具体的な影響については、資材、運賃の値上がりや取引先メーカーからの工賃値下げ要求である。資材や運賃の値上げについては、原価上昇分を値上げしてもらうように取引先と折衝しなければいけないが、これが非常に困難である。また、工賃値下げ要求についても交渉が困難である。	
		機械、機械器具の製造 又は加工修理	原油価格の高止まりについては、ある程度影響がある。具体的な影響については、組合員企業に対して運賃値上げ要請がなされている。どうやら、石油卸大手から運送会社に対して1Lあたり20円近い値上げがなされた模様である。	
	その他の製造業	漆器製造業 (能登方面)	売上高、収益状況とも下げ止まらない状況である。観光客の入り込みについても、ガソリン価格の高騰などにより少なかった。原油価格の高止まりについては、今後影響がありそうである。具体的な影響については、自動車での営業などガソリン代の経費が増えることである。	
		漆器製造業 (加賀方面)	1、2月に引き続き、3月も対前年同月比でプラス出荷となった。ただ、昨年の同月は大震災直後の大幅な落ち込みが見られた期間であるため、本格的な回復とは言えない状況にある。年間を通して見た場合、3月から夏場にかけて伝統漆器の大幅な落ち込みが目立っていたが、近代漆器については堅調な企業も見られ、産地全体としては5%前後のダウンで持ちこたえたようである。個人消費動向について、2~3月の当組合会館入場者数は前年同期比で20%以上のダウンとなり、特に3月の売上高は平年の50%程度となり過去最悪の成績に終わった。原油価格の高止まりについては、ある程度影響がある。具体的な影響については、近代漆器の原料樹脂が昨年比で10~15%程度の値上がりとなっている。なお、現状において価格転嫁は困難な状況である。	
		プラスチック製品 製造業	円高の影響がじわじわと出て来ており、この秋頃から震災復興需要が出てくるのではないという期待感とは裏腹に、現状が苦しいという感じである。確かに復興需要の影響は徐々に出て来ているものの、設備投資などの経済的好転まで繋がるには時間がかかりそうである。なお、若干であるが大震災の影響が薄れ、旅行客数が増えて来ているように思えるが消費額は結びついていない。	
	非 製 造 業	卸売業	各種商品卸売業	売上高は横ばいであるが採算性は悪化傾向にある。特に繊維関係が苦戦しており、業種によってバラツキが見られる。原油価格の高止まりについては、今後影響がありそうである。
			水産物卸売業	3月分の買受高は対前年同月比で0.6%減少、平成23年度は前年度と比べ2%の減少となった。バブル崩壊の平成3年を境に減少の一途を辿る現象からそろそろ脱せられるような景気回復策を消費税増税に走る政府に期待することは空しいことなのだろうか。
			一般機械器具卸売業	売上高は減少した。また、ガソリンの高騰など経費増から収益確保は至難の業となりつつあり、ローブローの様に見える。更に天候不順により、工事進捗状況の遅れから建設会社から支払いが延びているため、資金繰りが難しくなっている。今後についても、大幅な売上増は見込めず、4月以降の不透明さに一層不安感が増している。
事務用品卸売業			売上高は、前年同月比で伸びたもののまだまだ厳しく、特に販売価格の低下により収益が悪化している状況である。特に官庁関連が厳しい。3月末で金沢市内の同業者が廃業した。原油価格の高止まりについては、ある程度影響がある。具体的な影響については、ガソリンが高騰することにより車面経費や暖房光熱費がアップすることである。この対応策としては、エコモード運転の徹底、配送の効率化、エコ車両へ買い替える、暖房温度を下げるなどである。	
小売業		百貨店・総合スーパー	昨年同月比で売上高をみると全体で109.53%、ファッション116.2%、服飾・貴金属122.6%、生活雑貨97.9%、食品100.8%、飲食105.0%、サービス116.3%となり、客数は102.3%であった。昨年同月には東日本大震災が発生した月であったため、比較は困難である。一昨年前と比較すると全体で3%程度減少しており、特に食品と飲食が大きく落としている。今月は寒い日が続いていることが影響しているのかもしれないが、数年前から消費者への外食に対する意識が変化している。	
		男子服小売業 婦人・子供服小売業	本格的に冬物から春物へ商品入れ替えの時期である。昨年は大震災の自粛ムードがあったが、今年は気温が上昇せず天候も不安定であったため、実用品の動きが鈍かった。ミニイベントなど期間限定を含めた新しい商材や楽しめる企画力が望まれている。	
		水産物小売業	3月に入っても、相変わらずの天候不順により入荷が少ない。よって全体的に高値で推移している。小売商においても悪い状況に慣れてしまっている感がある。後半に入りやや入荷が増えたが、まだ不安定である。二番セリは地物鮮魚が多く、概ね好調であった。	
		青果物小売業	原油価格の高止まりについては非常に影響がある。具体的な影響については、原油高騰からハウスの野菜の価格が高騰していることである。	
		米穀類小売業	売上高は対前年同月比で89%と相変わらず減少に歯止めがかからない状況にある。このまま推移すれば廃業する組合員が出て来そうな状況である。多少なりとも景気が上向くことを期待している。消費者動向については、観光客の減少で業務用関係の動きが鈍化している。これから桜シーズンを迎えることになるが、期待は今ひとつの様子である。暗い話ばかりで先行きの不安が募るばかりである。原油価格の高止まりについては、今後影響がありそうである。具体的な影響については、ガソリン高騰の中では観光客も旅行を自粛することに繋がり、人出の減少から経済の上向きに期待できないことである。	

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(業況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での課題点)
非 製 造 業	小売業	機械器具小売業	3月の地域店の売上高は昨年同月比で65%と大幅にダウンした。これは、カラーテレビの伸びが1%と大きく減少したことは一番の要因である。減少したことについては、地デジ化移行に伴う需要の先食いによるものと考えられる。その他、主力製品の冷蔵庫は100%、エアコンは110%、洗濯乾燥機は110%と回復基調が出てきたものの、カラーテレビのダウンをカバーするには至っていない。この状況の中で、省エネ商品であるLED照明機器に積極的に取り組み、実績をあげている店が出て来ている。ただ、今後の売上の柱にすべく太陽光発電システムに取り組んでいるものの、実績は厳しく売上減の穴埋めには程遠い。原油価格の高止まりについては、今後影響がありそうである。具体的な影響については、原油を原材料とした家電製品全般の値上がりが見込まれる。また、物流コスト高から製品価格への転嫁が懸念される。これらの対応策については、地域店の立場では打つ手はない。
		燃料小売業	消費節約ムードで需要は低迷している。また、タイヤ交換の出足が鈍く売上高は減少した。なお、急激な原油価格高騰により価格転嫁が追いつかないため、収益状況も厳しい。そのため原油価格の高止まりについては非常に影響がある。具体的な影響については、仕入価格の上昇や販売価格への転嫁の遅れなどである。これらの影響への対策としては、販売価格への早期転嫁である。
		他に分類されない その他の小売業 (土産物)	売上高について、比較対象の昨年同月が大震災により悪すぎたのでその成績に対して大きく増加したものの、実績では前々年を下回った。なお、土日の度に天候が崩れ積雪もあったことも影響している。個人消費動向については、無駄遣いをしないし土産も必要最小限といった傾向はもう変わらないように思われる。原油価格の高止まりについては、ある程度影響がある。具体的な影響については、ガソリンの値上げにより旅行者に影響が出ることである。
	商店街	近江町商店街	売上高や収益状況については良くない。景気が悪すぎるのが要因と考える。消費者動向については、春休めで観光客が多少動いたものの財布の紐は固く、また飲食が目的となりつつあるなど従来の市場の形態が崩れているように思われる。原油価格の高止まりについては、特に影響は見られない。
		片町商店街	東日本大震災から一周年という時期のため、自粛ムードになっているため消費マインドが下がっている感がある。寒い日が続き、春物の売れ行きが悪い。ただ、飲食関連においては送別会や卒業などで活気が見られる。原油価格の高止まりについて、今後影響がありそうである。具体的な影響については、車で来街されるケースが減ることである。
		堅町商店街	原油価格の高止まりについて、今後影響がありそうである。具体的な影響については、家計を圧迫することから節約ムードが高まるのが懸念される。
	サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	昨年は大震災があったため比べることが困難であるが、震災前と同じ水準になった感がある。なお、欧米系など訪日外国人が戻りつつある。原油価格の高止まりについて、今後影響がありそうである。
		旅館、ホテル (加賀方面)	収益状況については対前年同月比で112%となったが、昨年は大震災の影響があったことや平成22年度と比較すると弱含みであったことなどから、決して良い状況と言えない。大震災から一年が経過し、首都圏から東北方面に向かう商品が出てきていたり、九州新幹線効果により徐々に観光客が増加している九州方面などに比べ、中部や北陸地方は地盤沈下の傾向が見られる。原油価格の高止まりについて、非常に影響がある。具体的な影響については、重油や灯油による暖房費の増加であるが、対応策は特にはない。
			3月の宿泊人員について、温泉地全体では対前年同月比100.3%とほぼ前年並みを確保出来た。1~2月と大きく減少し心配された宿泊入り込みは実績では持ち直しを見せているが、昨年は大震災発生により減少した状況であるため、依然として厳しさが続いている状況である。なお、例年同様に卒業旅行で温泉を訪れる若年層が多かった。これからは、震災から一年が経過し、この冷え込んだ観光需要は震災の影響ばかりにはできない時期に差し掛かっている。春の行楽シーズンを迎え、イベントなどの情報発信を強化して、少しでも宿泊に繋がるよう温泉地として努力している。原油価格の高止まりについて、今後影響がありそうである。具体的な影響については、旅館においては浴場や客室などの冷暖房などに重油を使用しているため影響が出るであろう。この対応策については、重油に変わる熱源や電力をはじめとしたエネルギー設備への転換のための特別な補助金の開設を望むところである。
		旅館、ホテル (能登方面)	3月の浴客数は対前年同月比で108.7%、売上高は110.4%と微増となったものの、この不況のためか日帰り客数が136.1%と大きく増加した。なお、一人当たりの消費単価も微増となった。原油価格の高止まりについては、ある程度影響がある。具体的な影響については、宿泊予約の鈍化に繋がっていると思われることである。
		自動車整備業	継続検査実績車両数を前年同月比で見ると、登録車でマイナス11.1%、軽自動車でマイナス4.4%となるなど繁忙期としては2月に引き続き異常に少ない状況である。要因としては、2月に引き続きエコカー減税・補助金の効果が顕著に現れ、継続検査より代替需要に向けた結果であったと考えられる。従って、全体でこの3月期はマイナス8.9%と減少した。一方、新規登録状況においては、登録車でプラス67.0%、軽自動車でプラス74.9%と合計プラスで69.7%、10,230台と減月で1万台を超えたのはリーマンショック前の2008年3月以来4年ぶりのことである。4月以降も補助金などの影響で伸びる可能性はあるが、3,000億円の予算がいつまでもつかが懸念される。従って、前半は好調であっても後半がどうなるのか動向を注視していきたいと考える。
	建設業	室内装飾工事業	例年3月は忙しい月であり、今年も同様であった。特に床部門は職人不足などで忙しい月となった。原油価格の高止まりについて、今後影響がありそうである。具体的な影響については、材料に塩ビ製品が多いため、今後値上げ要求が高まることと予測されることである。材料の値上げは工賃になかなか転嫁できない。
板金工事業		例年、冬季は工事受注が少ないが、今回はそれなりに受注量が確保出来た。しかし、雪など天候不順により工期内に終わることが困難な物件も見られた。業界としては、早く暖かくなり、季節もよくなれば工事受注が増加すると期待している。	
管工事業		給水工事の受付件数は、対前年同月比で14%の減少であり、ガス管工事の受付件数はほぼ横ばいの状態であった。年度を通してみると、昨年度より悪くなっている。今後、ガソリンの値上げによる材料単価の高騰が予想される。早期の内需拡大と受注環境が良くなることに期待したい。原油価格の高止まりについて、今後影響がありそうである。具体的な影響については、材料費の値上げや資材運搬に伴う経費の値上がりが見込まれ、契約単価との差額を持ち出すことになったり、収益の減少に繋がると思われる。	
運輸業	一般貨物自動車運送業①	高速道路利用額は対前年同月比で102%とほぼ横ばい、対前月比で110%で推移した。軽油価格は毎週値上がりし、7~8円の値上がりとなった。イラン情勢は依然緊迫を増し、先行きが不透明なままである。燃料サーチャージ制は既に導入しているものの、実効性のあるものにしていくことが重要な課題となっている。東北地方の高速道路無料化措置が3月末で終了したが、新たな負担分をきっちり料金に上乗せしたいところである。大型トラックに衝突被害軽減ブレーキ装置が義務付けられ、平成26年11月から順次車種別に適用される。既にオプションで付けている事業者もあるが、新車購入時のコストアップは避けられない。なお、中型免許制度が発足して、普通免許で運転できるトラックが従来は総重量8トン未満であったが、現在は5トン未満となっている。高校を卒業した普通免許保持者が5トン未満のトラックしか運転できなくなったことにより、運送事業で保持している車両が運転できなくなっている状況において、中型免許所持者を採用対象とする事業者が多いことから高校卒業者の採用が困難となっている。中型免許取得まで社内育成することは経営上厳しいのが現状である。	
	一般貨物自動車運送業②	3月度の売上高は対前月比で約7%増加したが、対前月比では約8%の減少となった。厳しい中でも3月は期末月の関係で一般貨物を含めて荷動きが幾分か増加した様である。原油高に伴い軽油価格が高止まりしているが、サーチャージの行使は容易に出来ないため、収益を大きく圧迫している状況にある。そのため、原油価格の高止まりについては非常に影響がある。3月中の軽油価格はリッター当たり約10円値上がりし、4月に入っても下らない見通しである。	